

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区六本木 6-5-27
園名	リトルパルズ保育園六本木

1 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

土地柄自然が少ないこともあってか、動物や植物(落ち葉や砂を含む)に触れる機会があると、集中力が普段よりもましており、動植物への興味も強くなっています。また散歩をしながら見かける様々な物の名前を知りたがり、保育者が伝えるとすぐに覚えて他児に知らせようとする姿も見られています。興味はありますが、普段自然に触れる機会が少ないため、より興味のあるものに触れる機会を作り、探索の機会を増やしていけたらと思いテーマを設定しました。

2 活動スケジュール

7/11 トマトの種まき
7/24 砂場開き
8/12、13 野菜に触れ食べる
9/12、19 砂遊び
8/18、9/22 ボディペイント
12/5 移動動物園
12/8 マイクロスコープで葉の観察

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】

- ・動物、植物の図鑑を本棚に設置していつでも手に取れるようにした
- ・身近な物から触れられるようにプランターを用意し、植物を育てる体験を行ったのち、
移動動物園にて動物にも触れられる機会を作った
- ・子どもたちの発見やアイデアを受け止めながら活動を展開した

【準備物】

プランター・砂場・ウォーターテーブル・マイクروسコープ・移動動物園・図鑑・栽培キット

4 探究活動の実践

<活動の内容>

植物栽培・観察

事前に砂場で土に触れ、感触を楽しんでいた。水の量に変化をつけることで、感触の違いを味わうことができた。プランターに種を植え芽が出ると、毎日様子を気にかけるなど興味を示していた。また、砂の感触の違いを味わったことで、水やりの際に意識する姿も見られた。その他にも、マイクروسコープを使用しての葉や茎などの観察をすると部分ごとの色の違いに気づくことができた。

ボディペイント

植物の栽培や戸外活動で見た植物を思い出しながら模造紙一枚に製作を行った。

移動動物園

各種動物に興味を強く示しており、エサやりやふれあいの体験を行った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・砂遊びでは積極的に砂に触れ、感触を楽しみながら動物や建物などを想像しながら作る姿があった。
- ・植物栽培では、まず土に触れると柔らかさや冷たさに気が付いていた。種をまく際にはここからどうなるかを子どもたちに問いかけると「大きくなる!」「どうなのだろう?」などと考えて答える姿があった。
- ・ボディペイントでは、季節の植物であるひまわりを製作した。大人概念(ひまわり=黄色、空=青)は伝えず子どもたちから出てきた色の絵の具を使用して製作を行った。最初は手で軽く色付けするのみだったが、次第にダイナミックになり顔や足にも絵具をつけて表現していた。
- ・移動動物園では小動物に興味を持っていたものの、10分程は怖がり触れようとするより観察していることが主だった。そのため、まず保育者が触れたりエサやりをする姿を見せると次第に慣れ、最終的には保育者の介助なしで動物に触れ、エサやりを楽しむ姿がみられた。

5 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

保育者の固定概念だけで考えず、子どもたちの意見を受け入れ取り入れる大切さを子どもが表現する姿を見て感じた。

普段動物に触れる機会がない中で、自然をテーマとし段階を踏んで楽しめるような計画を行ったことで子どもたちもわくわくした気持ちで活動に取り組んでいた。

植物・土・動物と様々な物に触れるだけでなく野菜を実際に食べるなどして五感を刺激していくとさらに子どもたちの積極性が増していったように感じた。

